

日本語研修コースホームページについて

今 西 利 之

要 旨

日本語研修コースでは平成11年度後期に独自のホームページを立ち上げ、以降期別ホームページを運営している。このホームページは日本語研修コースの運営にかかわる者がWebという新たなコミュニケーションチャネルを用いて有機的に結びつき、独自のコミュニティを構築することを目的としたものである。本稿ではその概要、アンケート調査の結果、及び今後の課題について報告する。

1. はじめに

熊本大学留学生センター日本語研修コースではコースの運営に Web を活用している。従来のホームページは、組織概要、スタッフ紹介、授業案内など学内外の不特定多数の者を対象とし、一般的な情報を提供することを目的としたものが多い。しかし当コースでは、コース運営に関係する学習者、教師(非常勤講師を含む)、日本語ボランティアスタッフ⁽¹⁾が Web を通じて有機的に結びつき、独自のコミュニティを構築することを目的とした Web の利用及びホームページの作成を目指している。本稿では日本語研修コース平成13年度前期ホームページを中心にその概要、アンケート調査の結果、及び今後の課題について報告する。

2. ネットワーク環境

熊本大学では総合情報処理センターがネットワークの運営・管理を行っている。各部局・研究室は総合情報処理センターに申請を行うことによって、独自の Web サーバーやメールサーバーを持つことが可能である。平成13年10月1日現在、留学生センターでは Web サーバー 4 台、メールサーバー 1 台、コンピュータ室のコンピュータを管理するための Net Boot サーバー 1 台が稼動中である。このうち日本語研修コースホームページ用としてWebサーバー 3 台を用いている。日本語研修コースホームページ用の Web サーバーとして用いている各マシンの性能とサーバーソフトは以下のとおりである。

- (1) Nihongo_1 サーバー <<http://j1.ryu.kumamoto-u.ac.jp>>
マシーン : Macintosh Server G3
CPU : Power Mac G3 400MHz HD : 9GB×2
メモリー : 384MB
ソフト : AppleShare IP 6.3 (MacOS9.04)
- (2) Nihongo_2 サーバー <<http://j2.ryu.kumamoto-u.ac.jp>>
マシーン : Power Macintosh G3 MT
CPU : Power Macintosh G3 266MHz HD : 6GB
メモリー : 192MB
ソフト : AppleShare IP 6.38 (MacOS9.04)
- (3) Nihongo_3 サーバー <<http://j3.ryu.kumamoto-u.ac.jp>>
マシーン : Macintosh Server 9600
CPU : PC604e 234MHz HD : 4GB×2
メモリー : 192MB
ソフト : AppleShare IP 6.33 (MacOS9.1)

ホームページの運営を1台のWebサーバーで行うことも可能である。しかし複数台のWebサーバーを使用し、サーバーごとに管理者を置くことによって、管理者一人あたりの管理負担や責任を軽減することができるとともに、トラブルの際の被害や復旧作業を最小限に抑えることが可能になる。またサーバーにはすべてMacintoshを使用している。これは、これまでの経験から、他のマシーンに比べ操作・管理が容易である、外部からの攻撃を受ける機会が少ないと考えられるからである。

Webページの運営・管理には多くの時間と労力が必要である。しかし、すべての組織にWebページの運営・管理を専門に行う担当者があるわけではないし、管理者のすべてがコンピュータやネットワークの専門家というわけではない⁽²⁾。Webページの運営・管理にあたっては作業の効率化・簡素化を図るとともに、管理者負担を分散させる方策を採ることが重要であると考える。

3. コースホームページの役割

情報技術の進歩により、ネットワークに接続することが可能な環境さえ整えば、誰もが簡単にWebを利用することが可能になった。Webを利用することによって、不特定多数の者に対して多くの情報を提供することが可能であ

る。この目的のために多くのホームページが作成され、Web上に存在している。同時にWebの利用は情報収集を容易にした。検索エンジン等を用いて目的のホームページを探し出し、必要な情報を収集するといった行為はもはや日常的なものといってもいいかもしれない。このようなWeb及びホームページの利用は情報提供・情報収集を目的としたものである。

一方でWeb及びホームページは情報共有や情報交換の新たな手段としても機能する。従来は地理的・時間的制約のため情報共有・情報交換が困難であったり、そのために多大な労力を必要としたりしていた者同士が、Webを介することによって地理的・時間的な制約が軽減された中で情報共有・情報交換を容易に行うことができるようになった。これはこれまでにはなかった新たなコミュニケーションチャンネルが築かれていることを意味する。

日本語研修コースの授業は専任教員と非常勤講師によるチームティーチング形式で行われている。チームティーチング形式で授業を行う場合、担当者間の連絡を緊密にし、情報交換を頻繁に行うことがコースの運営にとって重要である。しかし、非常勤講師は担当授業時間のみ出講するのが原則であるため、専任教員と非常勤講師が顔をあわせるのは週1回程度である。非常勤講師同士の場合、出講日が異なれば顔をあわす機会はもっと少ないだろうし、専任教員と非常勤講師全員が一同に会する機会は年に数回程度であるのが現状である。このため担当者間の情報共有・情報交換は不足しがちになる。しかしWebを利用することで、このような問題点は解決可能である。幸い、当コースの非常勤講師は全員が自宅からのネットワーク利用が可能である。このため、専任教員と非常勤講師との間の連絡にはメールを活用している。また日本語研修コースホームページには授業予定や授業記録が載せられており、非常勤講師は自宅からいつでも授業予定や授業記録を見て、授業の準備や学生の学習状況の把握に役立てることができる。

日本語研修コースに所属する学習者は月曜日から金曜日まで1日3コマの授業を受講し、授業終了後は復習や予習を行う必要がある。このため教室外で日本人と接する機会は極めて少ない。Webの利用はこの問題点も解決してくれる。日本語研修コースホームページにはBBSが設置されており、学習者は学内にあるコンピュータからBBSにアクセスし、日本語ボランティアスタッフとWeb上でコミュニケーションを行うことができる⁹⁾。

日本語ボランティアスタッフに対してはコースの行事予定や写真集、学習者が作ったホームページや作文が公開されており、学習者の学習状況やコー

スの活動の様子を知り、学習者とコミュニケーションを行う際の資料として使うことができる。また、コースの行事への参加を呼びかけるとともに、日本語教育に関するさまざまな質問を受け付けている。

日本語研修コースでは、Web を、コースの運営に関与する教師(専任教官・非常勤講師)、学習者、日本語ボランティアスタッフを有機的に結び付け、情報共有・情報交換を容易にするための新たなコミュニケーションチャンネルと位置付けて、Web 上での独自のコミュニティの構築を目指している。ホームページの内容もこのような視点にたって作られている。

4. コースホームページの概要

日本語研修コースでは平成11年度後期に独自のコースホームページを立ち上げた。以降、期別にコースホームページを作成し、徐々に内容の充実を図ってきた⁽⁴⁾。この節では平成13年度前期のホームページの概要を説明する。

(1) トップページ

〈<http://1.ryu.kumamoto-u.ac.jp/st/h13f/home.html>〉

コースホームページの主な更新情報や各ページへのリンクがある。フレームを採用しており、上部のタイトルと左のリンクは常に表示されるようになっている。

(2) 予定 〈<http://j1.ryu.kumamoto-u.ac.jp/st/h13f/info/index.html>〉

コースの行事予定に関する情報がある。コースの行事予定を公開することで、日本語ボランティアのコース行事への参加を促すことができる。

(3) 授業について

〈<http://j2.ryu.kumamoto-u.ac.jp/st/h13f/01f.top.html>〉

コースカレンダー、授業予定、授業記録がある。授業記録のページは教師のみアクセスが可能である。教師が授業進捗、授業記録を共有することで、授業準備の円滑化や授業進捗の調整が可能となる。

(4) 学習の記録

〈<http://j1.ryu.kumamoto-u.ac.jp/st/h13f/act/index.html>〉

学習者が書いた作文がある。学習者、教官、日本語ボランティアスタッ

フのみアクセスが可能である。日本語ボランティアスタッフが学習者の日本語能力の一端を知ることができる。

(5) フォトアルバム

〈<http://jl.ryu.kumamoto-u.ac.jp/st/h13f/photo/index.html>〉

行事の様子を写真で公開している。一部は一般公開しているが、写真のすべてを見ることができるのは学習者、スタッフ、日本語ボランティアのみである。教官及び日本語ボランティアスタッフが学習者に話題を提供する際のきっかけとして利用することができる。また学習者は自分のHPを作る際の素材として使っている。

(6) 交流広場

〈http://j3.ryu.kumamoto-u.ac.jp/st/h13f/hiroba_annai.html〉

学習者と日本語ボランティアスタッフがBBSを通じて交流を行うためのページである。学習者が作成したホームページもある。学生と日本語ボランティアのみアクセスが可能である。日本語の学習に追われ、日本人と接する機会の少ない学習者に新たなコミュニケーションチャンネルを与えることができる。

コースホームページが Web 上の独自のコミュニティを目指している以上、そこにはプライバシーにかかわる情報が多く載せられることになる。例えば、授業記録のページにはテストの点数や学生の学習状況に関する教師からのコメントが載せられているし、交流広場では学習者と日本語ボランティアの間でプライベートなやり取りが行われる可能性がある。これらは個人情報保護やプライバシー保護の観点から一般公開をすることには多くの問題がある。このため多くのページにはアクセス制限がかけられており、特定の利用者しかアクセスできないようになっている。

5. 授業記録をWeb上で共有することについてアンケート調査から一

コースホームページの中で平成13年度前期から新たに立ち上げたもののひとつに授業記録のページがある。このページには授業担当者が授業終了後に作成した授業記録(欠席者の名前、授業内容、テストの点数、次の担当者への引継ぎ事項、学生の学習状況に関するコメント等)が載せられている。

教師間の情報共有を目的とした授業記録の作成はノートに手書きで書き込むスタイルで以前から行っていたが、平成13年7月の留学生センター移転に伴って新設された日本語準備室^⑤に教師用のコンピュータが設置されたことを受けて、平成13年度前期からはコンピュータ上で授業記録を作成することにした。これは、コンピュータ上で作成したデータをコースホームページに掲載することで自宅からの授業記録の閲覧を可能にすることを主な目的としたものである。授業記録の作成には日記を作成するためのフリーソフトウェアを利用している^⑥。授業担当者は授業終了後にこのソフトを使って授業記録を作成する。作成されたデータは1日分ずつテキスト形式で保存されており、画面上のカレンダーの日付をクリックすれば過去のデータが表示される。また、HTML形式のデータを出力することも可能であり、1日の授業が終了した後で筆者がHTML形式のデータを作成しコースホームページ用のデータとして毎日サーバーにアップロードしている。

さて、授業記録をコンピュータ上で作成し Web 上で共有することの評価を得るため、平成13年7月に非常勤講師を対象としたアンケート調査を実施した(回答数7)。調査項目は「書き込みについて」「日本語準備室での閲覧について」「自宅からの閲覧について」「手書きの授業記録との比較」の4点である。以降、項目ごとに回答内容を紹介する。

(1) 書き込みについて

授業記録作成用のソフトの使いやすさについて聞いてみたところ、5名が使いやすい、1名が使いにくい、どちらともいえないが1名であった。その理由を聞いてみたところ、以下のような回答を得た。

使いやすい理由

- 書き込みのスペースが制限されていない。
- 早く書ける。
- 書き直しや追加が簡単。

使いにくい理由

- 書式が一定ではない。
- 授業記録の項目名(担当者、欠席者、授業内容といった見出し)を毎回書かなければならない。

記入項目の指定が画面上には無いため、白紙の紙にすべてを書き込むような状態であることが使いにくい理由になっているものと思われる。

(2) 日本語準備室での閲覧について

担当授業の前に過去の授業記録を閲覧するかどうかについて聞いてみた。

回答は以下の通りである。

毎回必ずチェックする	4
必要に応じてチェックする	2
ほとんどチェックしない	1
チェックしたことがない	0

また、手書きの授業記録の時と比較してチェックの頻度に違いがあったかどうかを聞いてみたところ、以下のような回答を得た。

頻度が高くなった	1
変わらない	4
頻度が低くなった。	2

頻度が低くなったと答えた人は、授業記録をチェックするのにコンピュータの立ち上げから始めなければならない、時間がかかることを理由として挙げている。

(3) 自宅からの閲覧について

自宅からの閲覧頻度について聞いてみた。回答は以下のとおりである。

毎回必ずチェックする	1
必要に応じてチェックする	5
ほとんどチェックしない	0
チェックしたことがない	1

全員が毎回チェックしているわけではないが、その理由としては、「事前に決めてある授業進度どおりに授業が進んでいることが多い」「出講後に日本語準備室でチェックできる」「担当が3時間目であるため出講後でないと正確な情報が得られない」といったことが挙げられている。

(4) 手書きの授業記録との比較

手書きの授業記録と比較した場合のメリット・デメリットについて自由記述形式で回答を求めた。回答内容は以下のとおりである。

メリット

- 自宅からチェックできる
- スペースを気にせず書き込める。
- 後から編集できる。
- 読みやすい字を書かなければならないというプレッシャーがない。
- パソコンでの入力の方が楽。
- 長年残せる。
- 文字が均一であるため客観化の度合いが幾分強まった。

デメリット

- コンピュータの立ち上げに時間がかかる。
- 手書きの方が過去にさかのぼって一覧でき、流れが把握しやすい。
- 書き込みと読み取りが別々になっている。(書き込みは日記ソフト、読み取りは Web。)

書き込みに関してはおおむね好意的な回答であったが、先に触れたように書式が一定しない点などが問題点である。閲覧については、自宅からチェックできることを最大のメリットとして挙げている人が多いが、閲覧するまでに時間がかかるため、手書きの時のように簡単に閲覧することができない点をデメリットとして挙げている人が多かった。

当初の目的である自宅からの授業記録の閲覧についてはある程度の成果が上がっていると考えられるが、書き込みや閲覧の利便性が向上するように作成用ソフトの変更も含め検討しなければならない。

6. 今後の課題

この節では平成13年度後期以降のコースホームページの運営にあたって現在課題となっていることについて述べる。

(1) 書き込みを容易にする。

学習者と日本語ボランティアは交流広場に設置されているBBSに書き込

みを行うことが可能であるが、非常勤講師は授業記録の作成のみが行える状態である。アンケート調査の回答の中には「授業記録の書き込みを Web 上で行えるようにし、書き込みと閲覧を統一してほしい。」「自宅からの書き込みができるようにしてほしい。」といったものがあつた。この点は BBS 等を用いることで実現できると思われる。BBS を活用することで授業記録だけではなく、授業についての全般的な議論が Web 上で行えるようになることが期待される。また、現在手作業で行っているサーバーへのアップロードを行わなくてもよいという利点もある。ただし、セキュリティーや画面設計の問題など解決しなければならない課題は多い。

(2) 教師と学習者をつなぐチャンネルを強化する。

現在のホームページでは学習者と教師をつなぐチャンネルが不足している。このチャンネルを強化することによって、例えば学習者が教師に質問をしたり、教師が学習者にアドバイスを与えたりすることができる。現在 Web メールシステムの導入作業を行っているが⁷⁾、これによって、学習者と教師だけではなく、日本語ボランティアを含めたコミュニティをつなぐチャンネルが強化されることが期待される。

(3) 動画を配信する。

情報技術の進歩により、コンピュータを使った動画編集が以前に比べて簡単にできるようになり、Web で動画を配信することも容易になった。現在のホームページでは静止画像をフォトアルバムとして公開しているが、今後は動画配信を試みる予定である。また学習の様子や教材の配信にも活用したいと考えている。

注

- (1) 学習者と日本語で交流を図ることを目的としてお願いしている学内外の日本人で、ネットワークの利用が可能であることが前提となっている。詳細は <<http://j3.ryu.kumamoto-u.ac.jp/st/h13f/staff-1.html>> を参照のこと。
- (2) 熊本大学留学生センターでは現在専任教官2名(梅田泉氏・今西)が運営・管理を行っている。
- (3) I Umeda, T. Imanishi (2001) を参照のこと。
- (4) 平成12年度後期までは梅田氏、平成13年度前期からは今西が中心となってホームページ

ジの管理を行っている。

(5)日本語関係の教科書や文献が置かれている部屋で、非常勤講師等の控え室も兼ねている。

(6) <http://hp.vector.co.jp/authors/VA017625/>からダウンロードしたフリーソフトウェア「しばやん日記 Ver.2.133」を使用している。

(7)この作業は梅田氏が*行っている。

参考文献

I.Umeda, T.Imanishi(2000) "Information Technology as an Aid for Japanese Language Learners" Information Technology Based Higher Education and Training 2001, proceedings <http://www.eecs.kumamoto-u.ac.jp/ITHET01/>

追記

熊本大学留学生センターのホームページは梅田泉氏(熊本大学留学生センター)との共同作業で運営されている。同氏からは技術的な支援や内容についてのアドバイスをいただいている。